

開催地：神奈川 グループ： タカダ's

2025.9.23

リテラシー教育に対する提言

年代別携帯使用例

中学生：リスニング、その他補助教材

高校生：授業連絡、課題配布（スタディサプリ）

大学生：レポート、卒論

共通：娯楽、連絡、検索

携帯使用のリスク & デメリット

デメリット： 近視、斜視、ドライアイ、イヤホン難聴、睡眠不足、時間の浪費、ネット依存、廃課金、残存性、授業中のサボリ、カンニング、生成AIで課題を終わらせる、フィッシング詐欺、ワンクリック詐欺、出所不明の情報、デマ、フェイクニュース、ディープフェイク

沢山ある！

現状の課題

情報リテラシー授業数の不足



リテラシー不足から生まれる課題



リテラシー教育を取り入れる

最終目標

子供が受けた情報リテラシー教育が家庭内で共有
実感のある教育体験（主体的な情報教育）

自学→**自律**までを教育機関内で完結させる

私たち(中高生)ができること

(例)

近視：ブルーライトカット（効果不明瞭）

イヤホン難聴：デバイスの音量制限設定

睡眠不足、時間の浪費、依存の可能性：アプリ使用時間制限

社会ができること

学校： リテラシー講座の追加

企業： 信頼性の高いAIツールの作成、啓発用シュミレーターの作成

省庁： 情報、ネットリテラシーの授業追加（文科省）、詐欺被害・ネット犯罪の規制&罰則強化（警察庁）、ネット上のデータの削除要請（国・省庁から企業へ）

政府： 事実と異なる内容の投稿に対する規制罰則の追加

学校

リテラシー講座の追加

（情報リテラシーを社会通念レベルまで高める）

例)

- ・ 詐欺、闇バイト、その他ネットトラブルのシュミレーターを使用した授業（義務教育で行うのが望ましい）
- ・ 調べ学習・発表を含む学習。

情報リテラシー講座

<Step 1 >

自分で課題を見つけ、発表のための情報を集める
より主体的な学習体験を得られ、より定着につながる。

<Step 2 >

子供が受けた情報リテラシー教育が家庭内で共有する

☆循環作る

企業

- より信頼性の高いAIツールの作成
(AIチェッカー等の誤検知防止のため)
- ネットリテラシー教育用のシュミレーター作成
(ワンクリ詐欺、フィッシング詐欺、闇バイト、
連絡アプリでの認識齟齬)

省庁

- ・ 情報・ネットリテラシーの授業数追加
(文科省)
- ・ 上記に伴う情報Iの単位数の追加
(文科省)
- ・ 詐欺被害・ネット犯罪の規制&罰則強化
(警察庁)
- ・ ネット上のデータの削除要請
(国・省庁から企業へ)

政府・国

- 信頼性の低いツールの指標を作成およびリスト作成
(トラブル防止のため)
- 事実と異なる内容の投稿に対する規制罰則の追加
(社会的混乱の予防)

まとめ

<理想>

子供が大人への共有を家庭内で行う



<省庁ができること>

リテラシー講座を取り入れる



リテラシーを深め問題を減らす！！！！

個人の自律を目指す

ご清聴ありがとうございました